

KEYAK! 11月号けやきようちえん

2017.10.31

先週は、保護者会のご協力ありがとうございました。また、全体会でのお話ができず、申し訳ありませんでした。先月も雨の日の多い中、その間を縫うように年中・少さんの遠足、年長さんはトトロの森に行くことができて良かったです。子どもたちは出発前からとても楽しみにしているのが見て取れました。遠足や〇〇に行く、というのは彼らにとってかなり特別感のあるもの、そしてかなり期待感のあるもの、という位置づけが会話や発言からよくわかります。私は年少さんの遠足にお伴し、まあまあ数の団体が来ていたのですが、そこで感じるのは、先に述べた子どもの期待感を半減させるような、私たちも含めた大人側から出す安全管理&事故防止ビームです。もちろん出先で何かあってはいけないので大人側の義務でもあるわけですが、そこに焦点を当てすぎてしまうと、子どもの視点や興味を無視した「規制」が始まってしまうのです。ある意味、そういった敷地内は車がビュンビュン走っているわけでもなく、気が付いたら子どもが猿山の下に落ちこちていたとか、ペンギンの池で泳いでいたという話も聞きません。子どもの視線の先にあるものと、その周囲の状況が把握できていれば十分だったりもします。ちなみに年少の先生たちは、バスの中でも動物園の中でも子どもたちと楽しんで行って来よう、という意識が感じられ、「褒めてつかわす」といったところ です。私はといえば、クラス全体が見えるようにと少し離れて歩いているといつも、

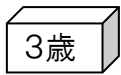
「はやと先生早く!」「はやと先生こっちだよ!」と子どもたちに言われてしまうのでした。

遠足などは、行く前も当日も後日も子どもたちにとって、特別感のある大きい「シゲキ」として、見たこと、聞いたこと、感じたことが印象に残り、これからの成長におおいに役立っていると思います。これらと共に、園生活においてもあそびや取り組みの中で日々頻繁に起きている小さい「シゲキ」は、積み重ねることによって自分の生活習慣や人間形成の基礎になっていきます。そんな中でこれからの「こどもかい」の取り組みを通して、先生と、クラスと、子どもたち同士と、「人とのつながり」の基盤を築いてほしいと願っています。

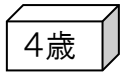
自己発揮や協調性や協同性、いろいろな側面をもっていますが、それらを学びとってもらうためには、、、環境や雰囲気づくり、、、もっと基をたどれば、「間違えてもいいのだ」の環境づくりが子どもたちにとっては必要ではないかと思ひます。それは人によって、考え方、感じ方、力の出し方、恥ずかしさまでひっくり返るくらい違ひがある、mんmのを受け入れたり受け入れられたりできるといいと思ひています。きつとキャパの広い人間に成長していくはずです。

「失敗は成功のもとなのだ」・・・保育者含めてシゲキも間違いも、そこをうまく拾って子どもたちに返せるといい。そしてそれが子どもたち全体に広がればいいと思ひています。

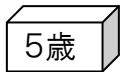
今月のねらい(育ってほしい姿や経験してほしいこと)はクラスだよりでお知らせします



- それぞれの思いを出し合いながら、友達と一緒にあそぶ
- ごっこ遊びを通して友達とイメージを共有したり、自分なりに表現を楽しんだりする
- 季節の変化に気づいたり、秋の自然物を使って遊ぶ楽しさを味わったりする



- 友達との遊びを楽しみながら、かかわりを広げていく
- クラス全体でまとまると楽しい遊びや活動を経験し、実感する
- したいことが実現できるように材料や場を選んだり、使い方を工夫したりする



- 互いにアイデア・イメージを出し合ってクラスで共有していく
- 内容や取り組みなど、クラス集団で意見を出し合って共通理解する
- 全体を見渡して、必要に応じて援助し合うことができる